

平成22年度高校教育室所管「元気な三重を創る高校生育成事業」の成果について

テーマ：地域との絆を育む高校生支援事業

指定校・対象校	研究概要	成果	検証
四日市農芸高校	専門高校での学習を生かした地域ボランティア活動	生徒によるデイサービスお弁当作り、学童保育実践を通じて、実行力、コミュニケーション力が向上した。	●デイサービスお弁当作りに関わった生徒の感想文をみると、始めは慣れないことが多かった。しかし、大変心を込めて作ったお弁当を届けることで、「おいしかったよ」「ありがとう」という言葉が返ってきたので嬉しかった。地域との結びつきを感じたという感想が多い。 ●3年食物経営コース23名、製菓衛生コース20名が参加 ●生徒の感想には、今後も続けて欲しいという感想が多い
神戸高校(定)	学校・保護者・地域との連携で育む国際理解教育並びに共存に係る研究	地域の伝統文化である伊勢型紙や陶芸、イラスト等の創造制作・展示を通じて、生徒同士や地域の方々とのコミュニケーションを図ることができ、生徒のコミュニケーション力が向上した。	●外国人生徒も含め、地域の方々の家を訪問し、文化祭への呼びかけを行った。 地域の人々から感謝、激励の声が多く届いた。
白子高校	学校行事「白子高校創作ミュージカル・大黒屋光太夫」に取り組み、生徒の創造力・実践力を育むとともに、地域との連携、地域への貢献を目指す取組	「創作ミュージカル」の制作と公演を通じて、生徒一人ひとりが自主的に活動できる力を養い、役割分担と協力の大切さを覚えた。また、地域社会に生きる自己を振り返り、社会貢献について考える機会となった。	●2月18日：来賓、同窓会、PTA等800人の観客の前で上演 2月19日：一般市民450人の前で上演 ●観客へ感動を与え、生徒は達成感を得ることができた。地域へ文化力を発信できた。 ●2年生吹奏楽コースが中心となり演技を行う。
津工業高校	中学校向け出前授業および小学生向け参加体験型の「集まれ！こどもエンジニア」を通して、「ものづくり」の楽しさ、工業教育の魅力を知る機会とする取組	中学校への出前授業を通して、ものづくりの楽しさや工業への関心を高める機会を作っている。「集まれ！こどもエンジニア」の企画など好評である。	●地域の小学生・保護者約200人が「ものづくり教室」を体験した。 ●感想文の多くが、たのしさを実感した、熱心な説明への感謝の声であった。生徒は、感謝の声から役割達成と満足感を体験できた。
白山高校	地域の文化・歴史・伝説を取材し絵本を作成し、地域の文化力向上に寄与する取組。特別養護老人ホームの植栽整備による異年齢交流の推進を図る取組	作成した絵本の内容や地域の伝説をプレゼンすることで、表現力向上、地域理解につながった。また、特別養護老人ホームとの交流を通じ、コミュニケーション力を向上させる効果が生まれた。	●3年生情報コミュニケーション科40人の生徒が、創作絵本を作成し、地元の保育園に読み聞かせや教育機関へ配布を行った。 ●3年生普通科の生徒が栽培した菊やバラを地域の人々に配布した。
上野高校	地域の小学校・保育所・老人施設における、授業成果の発表・交流体験	楽器演奏交流や保育実習体験を通して、生徒は子どもたちとふれあい、自己を省みることや将来を考える機会につながった。	●音楽選択者66人が、歌詞カードや教具の作成を行いました。 また、創作絵本を制作し、互いに読み聞かせの練習を行った後、保育園実習に望んだ。66名が恥ずかしい、絵が下手だからいやという感想から全員が児童との交流を通じて社会貢献の素晴らしさを体感し、自信とやる気が芽生えた。
伊賀白鳳高校	地域の高齢者との交流を通じ、「地域福祉教育」を推進していく取組	地域のふれあいサロンへの参加を通して、異世代交流を図るとともに、「地域の方とともに学ぶ福祉講座」を開催し、福祉教育を地域と一体となり推進した。	●地域のふれあいサロン：生徒10人、高齢者34人(バブルアート)生徒9人、高齢者28人(毛糸でゆびの運動) ●地域の方とともに学ぶ福祉講座：ヒューマンサービス科の2年生(介護福祉) 地域の方36人
名張高校	地域の身近な産業に係るボランティアの取組	名張市内における農園、牧場、観光案内の体験を通して、生徒の地域産業に対する理解が深まり、郷土愛も育まれた。また、働くことの意義ややりがいを感じることで、生徒の職業に対する意識も高まった。	●地域の農園や牧場におけるボランティア活動を通じて、命の大切さや地元ブランドのよさを再認識する事ができた。
名張西高校	地域における障がいのある人との共生のあり方及び今後の地域との係わりのあり方等についての研究	伊賀つばさ学園との交流を通して、相互理解を深め、ともに生きる仲間としての自覚の育成を図った。	●交流演奏会(参加者：吹奏楽部38人、ヒューマンネットワーク5人)始めは緊張したが、交流をしてみても、障がい者との、共に生きることの大切さを感じたという感想などが増えました。 ●半日交流会(参加者：生徒38人) 同年代の生徒との交流を通じて互いに頑張ろうという気持ちになった。
相可高校	環境回復活動、園芸福祉活動、伝統野菜の栽培による地域づくりへの取組	田丸城跡のお堀の水質浄化調査、園芸福祉花壇での花づくり、相可菜と伊勢イモの栽培を通じて、地域貢献を図った。	●園芸福祉活動により、危機管理の重要性について学びました。 ●地域住民への環境回復のための啓発活動を継続して行う必要があることを知る。
明野高校	地域活性化への取組と地域貢献活動の研究	観光案内ボランティア、子育て支援グループとの交流等でコミュニケーション力を高めるなど効果を上げた。	●ボランティアや地域活性化のための活動、料理教室、ひじきか祭りを通じて、食の安心・安全を確認や地域への貢献をするという自覚が芽生え始めました。
南伊勢高校度会校舎	地域の人々との交流を通して、生き方や生活を知り、自らの生きる力を養うという取組	地域を中心とした体験学習を通して、生徒の興味・関心の幅が広がった。また、人と人とのふれあいを通して、生徒はその大切さや難しさのなかから、自己の在り方、生き方を深く考えることができた。	●ケアハウスとの交流 お年寄りから多くのことを学びました。(役割、コミュニケーション) ●手話を通じて 自分の気持ちを伝えることの難しさ、相手に伝えることの楽しさを学びました。
木本高校(定)	地域に生きる人びとと実習等を通じて交流し、地域社会の一員としての自覚や自己の役割を認識し、将来自立した社会人となることを促す取組	陶芸制作、七宝焼制作を通じ、地域の工芸に触れ、ものづくりの喜び等を体験する機会の充実を図った。	●地元の和歌山県の新宮高校と連携し、陶芸制作や七宝焼きを体験した。 ほとんどの生徒が実施に満足している。また、実施後のアンケートでも効力感が高い。

※ 成果発表の機会「高校生フォーラム」における参加者の満足度

H20 66.7% H21 71.4% H22 77.1%